

# 第6学年 体育科(保健)学習指導案

2020年10月23日(金)5校時  
第6学年1組男子20名 女子18名 計38名  
指導者

## 【研究主題】

主体的に取り組み、考える楽しさや上達する喜びを味わうことのできる児童の育成  
～健康な体をつくるために～

### 1 単元名

病気の予防 G 保健 (3)病気の予防 (エ)喫煙、飲酒、薬物乱用と健康

### 2 単元の目標

知識	病気の予防について理解できるようにする。
思考力, 判断力, 表現力等	病気を予防するために、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現できるようにする。
学びに向かう力, 人間性等	病気の予防について、健康や安全の大切さに気付き、自己の健康保持や回復にすすんで取り組むことができるようにする。

### 3 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	病気の起こり方とその予防方法、喫煙、飲酒、薬物乱用と健康、地域での保健活動について、課題解決に役立つ基礎的な事項を理解している。	病気の予防について、課題を見付け、予防の観点から解決方法を考え、適切な方法を選び、それらを説明している。	健康、安全の大切さに気付き、病気の予防についての学習にすすんで取り組もうとしている。
学習活動に即した評価規準	①病気の予防について理解し言ったり書いたりしている。 ②病気や健康を損なう要因について理解している。 ③喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は健康をも損なう原因であることを理解し、言ったり書いたりしている。 ④地域では、保健に関わる様々な活動が行われていることを理解している。	①病気の予防について、要因から課題を見付けている。 ②学習したことを活用して、課題の解決方法を考え、自分事として捉え、気を付けることや実行していくことを書いている。 ③病気の予防について、病気の予防や回復のために考えたり、選んだりした方法がなぜ適切であるか、理由を挙げて書いたり、友達に説明したりしている。	①自分の生活を振り返りながら、病気の予防について関心をもち、すすんで学習に取り組もうとしている。

### 4 学習領域の特性

#### ① 一般的特性

- ・病気の発生要因や予防の方法、喫煙・飲酒・薬物乱用が健康に与える影響などを知識(※1)として理解する学習である。

・病気の予防に関する課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現し、実践する態度を育てる学習である。

(※1) 知識とは具体的に

- (ア) 病気の起こり方
- (イ) 病原体が主な要因となって起こる病気の予防
- (ウ) 生活行動が主な要因となって起こる病気の予防
- (エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康
- (オ) 地域の様々な保健活動の取組 (小学校学習指導要領 (平成29年) 告示より)

② 児童から見た特性 (エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康

「喫煙、飲酒」は、未成年には認められていないこと、また、薬物を使用してはならないことを分かっているが、なぜそうなのかという理由に関しては「体に毒だから」「体によくないから」というイメージでとどまっている。本単元では、急性、慢性も含め、喫煙や飲酒が心身に与える影響について具体的に理解することをねらう。学習したことが、根拠のある知識となり、法律で禁止するにはわけがあることを納得できるだろう。その上で「成人になるまで喫煙や飲酒をしない」「成人になってからも喫煙や飲酒とは上手に付き合う」などの態度を自分なりに考えていくものと思われる。

5 目指す児童像 (エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康

【知識】

- ・飲酒や喫煙、薬物乱用の危険が分かった。
- ・地域には、保健に関する施設があるのか。



【思考力, 判断力, 表現力等】

- ・大人になってからの飲酒や喫煙との付き合い方を考えた。
- ・薬物乱用や、未成年での飲酒・喫煙を誘われたときの断り方を考えた。

【学びに向かう力, 人間性等】

- ・健康や安全の大切さをすすんで学べた。
- ・学んだことをこれからの生活に生かすぞ。

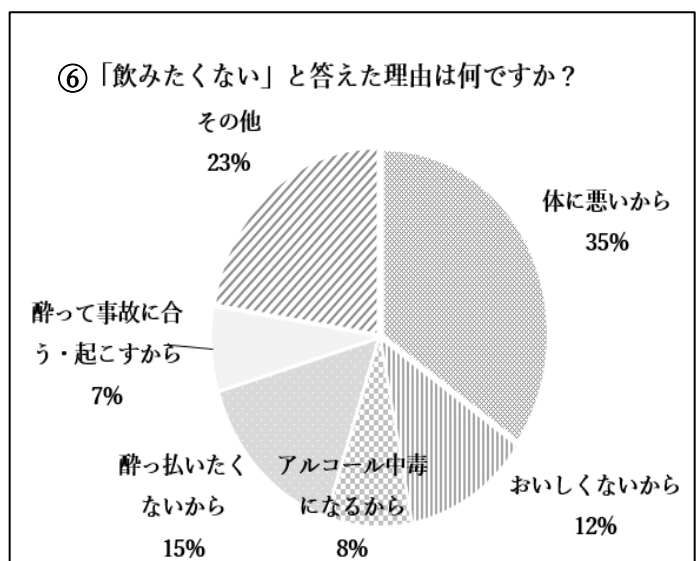
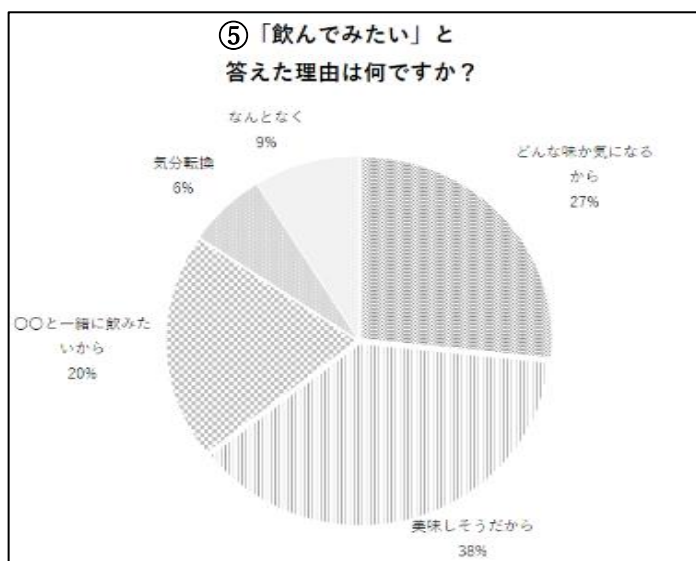
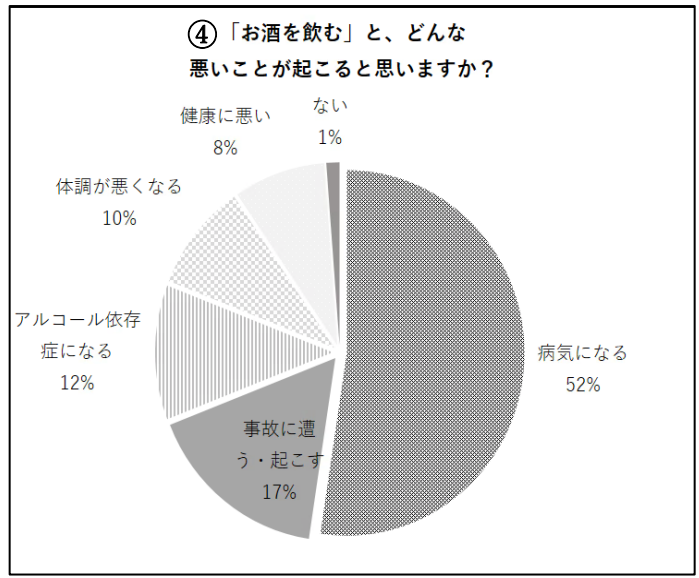
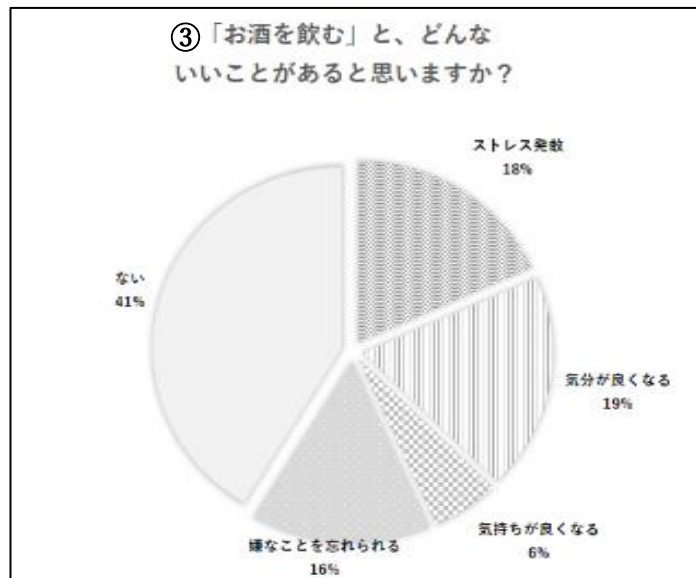
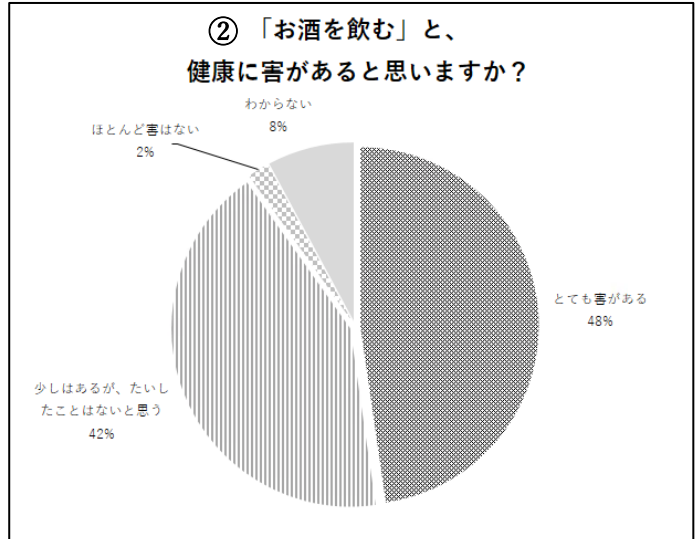
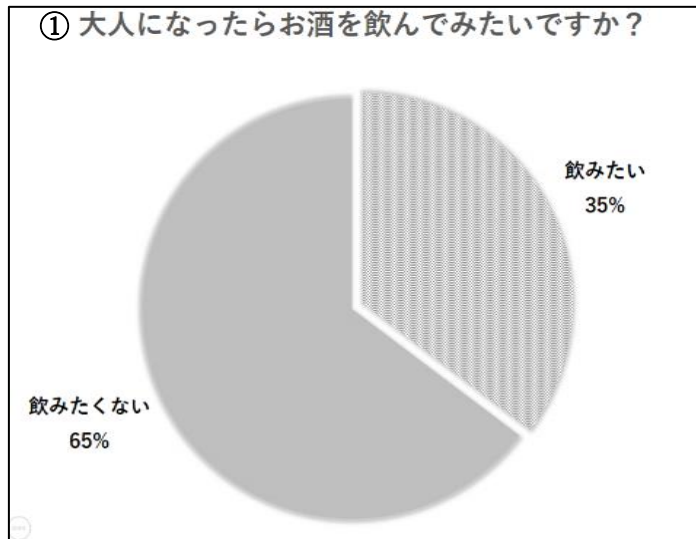
6 学習の系統性

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
病気の予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康や安全に気を付け、規則正しい習慣を身に付ける。</li> <li>※特別活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康と生活習慣の関わりを理解する。</li> <li>・健康と生活環境の関わりを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気の発症の仕組みを理解する。</li> <li>・生活行動に起因する病気の予防のため、良い生活習慣を身に付ける必要があることを理解する。</li> </ul>
歯科保健指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一大臼歯のむし歯を予防する。</li> <li>・好き嫌いなく、よく噛んで食べる習慣を身に付ける。</li> <li>※特別活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯の形と働きを理解する。</li> <li>・自分に合った歯の磨き方を工夫し実践する。</li> <li>※特別活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・むし歯の原因と予防方法を理解し実践する。</li> <li>・第二大臼歯のむし歯を予防する。</li> <li>・歯周病の原因と予防を理解する。</li> </ul>
喫煙・飲酒 薬物乱用防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬の正しい使い方を知る。</li> <li>※特別活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・喫煙の害を理解し、その防止に関心をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発育期の喫煙、飲酒の害について理解する。</li> <li>・薬物の害について理解する。</li> </ul>

※第1～4学年の学習内容として、体育科の「保健学習」ではないものも含まれるが、保健指導の内容として表記した。

## 7 児童の実態

### 【1】実態調査(エ)喫煙、飲酒、薬物乱用と健康の飲酒に関して



### 【2】考察

質問①「大人になったらお酒を飲んでみたいですか」では、「飲みたい」と回答した児童は35%であった。理由は「味が気になる」「美味しそう」「親や友達と飲みたい」などが挙げられた。「飲みたかない」と回答した児童は約6割であった。飲みたかない理由は、「体に悪そう」「飲めない体質」「お酒がまずいのではないか」などが挙げられ、お酒に興味がない児童が

多いことが分かった。飲みたくないという理由から児童は自身の健康や体質のことを気にしていることが分かる。

質問②「お酒を飲むと健康に害があると思いますか」では、「とても害がある」が47.4%、「少しはあるが、たいしたことはないと思う」が44.7%、「ほとんどない」が2.6%、「わからない」5.3%と、クラスの半分以上の児童は、飲酒による害がないと思っている。依存症や何らかの病気にかかるなど、漠然としたイメージをもっているものの、まだ大人の世界の話であり、「自分事」としては捉えられていないことが分かる。

今回の授業を通して、飲酒が心身の健康にどのような影響を及ぼすのかについての正しい知識を身に付けさせる。そして、低年齢からの飲酒は特に心身への害が大きいことを知ることで、未成年者の飲酒が法律で禁止されていることを理解させたい。そして、飲酒のきっかけを知り、他者から飲酒を勧められたときの断る理由を伝えられる児童を育てていきたい。

## 8 研究主題にせまるための手だて (エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康

第6学年・養護分科会では「主体的に取り組み、考える楽しさや上達する喜びを味わうことのできる児童の育成～健康な体をつくるために～」という研究主題を受けて、目指す児童像を「病気についての正しい知識をもち、すすんで予防に取り組みながら心身ともに元気に過ごせる子」と設定した。

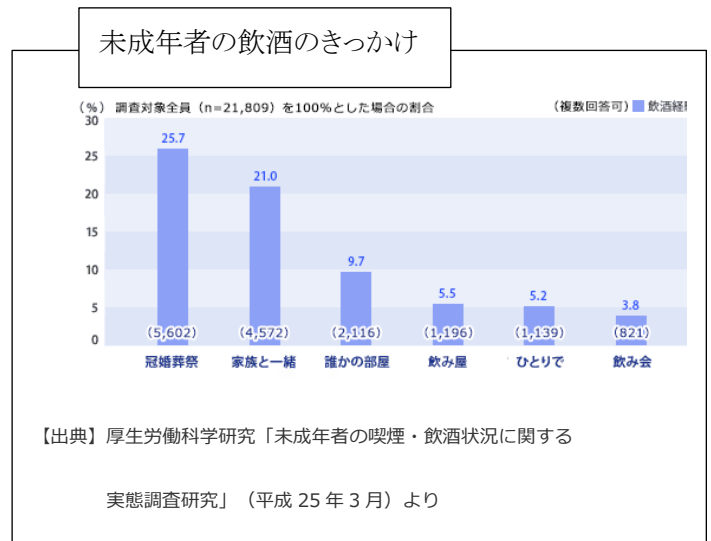
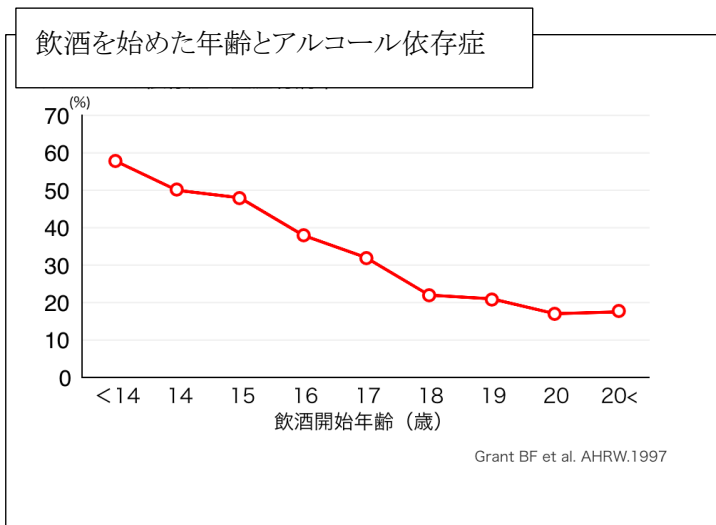
### 主体的に取り組むために

#### (1) 意識調査を生かした問題提起・学習理解

主体的に学習に取り組むためには、本単元の内容が自分自身の生活と密接に関わりがあるという実感が必要である。しかし、飲酒は児童が体験したことがない。そこで、児童がどのくらい飲酒の知識をもっているか、飲酒に対してのイメージはどのようなものであるかを共有することで、飲酒の学習に活かしていきたい。

#### (2) 視覚的な資料の提示

教科書の資料に加え、効果的な資料を活用し、それらを視覚的に分かりやすく大きく黒板に提示することで、児童の関心や意欲を高め、理解を深められるようにする。



### 考える楽しさや上達する喜びを味わうために

#### (1) 役割演技を通したシェアリング

飲酒の害を理解した上で、未成年者で飲酒を誘われた時の断り方を考えさせる。起こりうるシチュエーションを考えさせることで、誘われても断れる強い意志をもてるようにしたい。また、友達と役割演技をすることで、相手を納得させ、不快感を抱かせない断り方にも気付かせたい。

【起こりうるシチュエーション】 親戚のおじさんに飲酒を誘われた時

おじさん:「今日のはめでたい、正月だ。今年は〇〇も中学生だな。めでたい。1杯いこうぜ。かんぱーい。」

自分 :「 」

おじさん:「少しくらいなら大丈夫。ことわざにもあるだろ。酒は”百薬の長”だからな。」

自分 :「 」

おじさん:「そのうちみんなもお酒を飲むから。今のうちからきたえておかないとな。」

自分 :「 」



## 10 本時の学習(8時間扱いの6時間目)

### (1)本時の目標

【知識】 飲酒の害と未成年者の飲酒の禁止について理解できるようにする。

【思考力, 判断力, 表現力等】 「飲酒」についての課題を見付け、解決方法を考え、適切な方法を選び、説明できるようにする。

### (2)展開

	学習活動	・指導上の留意点 ■評価規準(評価方法) ☆児童のつまずきに対する言葉かけ「 」・手だて
導入	1 挨拶をする。 2 本時の導入を行う。 ①事前のアンケート結果より、飲酒についての考え方を知る。 ②本時のねらいについて知る。	・画像やアンケート結果を見せて、飲酒の害についての学習意欲を高める。 ・事前アンケートの結果を見せて、飲酒に対するイメージを共有する。
	飲酒をすると、体にどのような害があるのか知り、これからの生活に生かそう。	
展開	3 飲酒の害について知る。 ①飲酒をすると、体にどんな影響が現れるのか知る。 ②飲酒運転やイッキ飲み防止キャンペーンが行われているのはなぜか知る。 ③長い間、飲酒の習慣を続けていると、体にはどんな害が現れてくるのか知る。 4 シェアリング①を行う。 未成年者の飲酒が禁止されているのはなぜかを考え、全体で共有する。 5 未成年者の飲酒のきっかけについて知る。	・写真や絵を見ながら確認する。 ・イッキ飲み防止キャンペーンのポスターを見せる。 ・飲酒を続けて縮んだ脳は、中央の隙間が大きくなっていることを確認する。 ・「飲酒を始めた年齢とアルコール依存症」のグラフを見せて、早期の飲酒が依存症につながりやすいことを確認する。
	6 シェアリング②を行う。 飲酒を勧められたときの断り方を考え、役割演技を通して共有する。	■飲酒の害と未成年者の飲酒の禁止について理解し言ったり書いたりしている。(発言、プリント) ☆なぜ未成年者の飲酒が禁止になっているのか分からない。 →「飲酒の害はどんなことがあったか思い出してみよう。」 ・未成年者の飲酒のきっかけについてのグラフを見せながら説明する。 ■課題の解決方法を考え、自分事として捉え、気を付けることや実行していくことを言ったり書いたりしている。(プリント、発言) ☆断り方が分からない。 →「お酒を飲むとどうなってしまうか確認しよう。」 「友達の断り方を聞いて、参考にしよう。」
まとめ	7 本時の学習感想を書く。 8 挨拶をする。	・本時のめあてを振り返り、飲酒の害を知り、どのように考えたのか感想を書けるようにする。